

56-33

紙製
袖珍

産科模型
完

獨逸國民顯大學婦人科産科教頭樞密醫官
プロフェッソル、ドクトル、フランツ、フォン
ウヰンケル氏序
日本醫學士、ドクトル 柴田耕一考案



(第二版)

成功堂發兌

Geburtshülflche
Taschen-Phantome

von

Dr. med. K. Shibata.

s. z. Volontärarzt an der Universitäts-Frauenklinik. München.

Mit einer Vorrede

von

Prof. Dr. Franz VON Winckel

Tokyo, 1893.

Verlag von Sēkōdō.

Vorwort zur ersten Auflage.

In dem geburtshülflichen Unterricht ist es sehr wichtig, dem Studierenden möglichst bald richtige Vorstellungen von einer Reihe von Zuständen zu verschaffen, mit deren Kenntnis er fortwährend zu rechnen hat. Die bisherigen geburtshülflichen Phantome, welche dieser Art des Unterrichts dienen sollen, zeigen noch mancherlei Mängel, sind nicht jeden Augenblick dem Studierenden zugänglich und die Kinderpuppen aus Leder — selbst die besten nach der Angabe von Breisky verfertigt — bieten der richtigen Darstellung der verschiedenen Lagen, Stellungen und Haltungen des Kindes mancherlei Schwierigkeiten dar. Der Versuch meines Schülers des Herrn Dr. Shibata, eine Art von Taschenphantom zum Gebrauch der Studierenden

zu konstruieren, welches denselben aller Orten und jederzeit zur Übung und Repetition dienen könne, ist also gewiss berechtigt. Denn die Einstellung der verschiedenen normalen Kindeslagen ist in demselben sehr leicht, auch die Komplikationen durch Vorfall kleiner Teile sind gut zur Anschauung zu bringen.

Bei den Gesichts-, Stirn- und Vorderscheitelstellungen, sowie bei den Schiefstellungen lassen sich die Einknickungen des Rumpfes über seine Längsachse naturgetreu nachahmen.

Die Stellung der Kindesteile, besonders diejenige Peripherie des Kopfes, welche bei den verschiedenen Lagen des letzteren als grösste das Becken passiert, sind an dem Kopf durch Linien bezeichnet, auf denen zugleich die Grösse des betreffenden Umfanges notiert ist. Dadurch wird es dem Studierenden möglich, sich gerade über die besonders schwierige Frage, in welchem Raum des Beckens der Kopf stehe, jeden Augenblick

eine richtige Anschauung zu verschaffen und so zugleich ein Urteil über die Haltung der Zangengriffe bei etwa notwendig werdender Extraction zu gewinnen. Das kleine Taschenphantom ergänzt daher die Abbildungen der geburtshülflichen Lehrbücher nach verschiedenen Richtungen hin in erwünschter Weise.

Und nicht blos dem Studierenden, auch dem praktischen Arzt, welcher sich z. B. rasch über die Verhältnisse der Kindesteile zu den mütterlichen Sexualwegen ins Klare bringen will, kann das Taschenphantom des Herrn Dr. Shibata den Ersatz eines weiblichen Beckens und einer Kinderpuppe in bequemer und billiger Weise liefern. Darum eignet es sich endlich auch zum Gebrauch in dem Examen von Hebammen und bei Repetitionen mit denselben, weil es eine sehr praktische Gelegenheit gibt zu prüfen, ob die Examinandin die richtigen Kenntnisse und Vorstellungen von den verschiedenen Kindeslagen, -Stellungen

und -Haltungen hat, indem man durch sie dieselben im Phantom zurechtlegen lässt.

Aus allen diesen Gründen glaube ich also den Fachgenossen das Phantom des Herrn Dr. Shibata bestens empfehlen zu können.

München, 30. Januar 1891,

F. Winckel.

獨逸國民顯大學產科婦人科教頭プロフェッソール、

ドクトル、フランツ、フォン、ウィンケル氏序の和譯

凡そ産科を教授せんご欲する者は須く先づ學生をして斯學に樞要ある諸般の狀態上に可及的速に正當なる想像を下さしめざるべからず蓋し學生は是れに由りて常に講學の便を得べき者なり然るに従來此の點に向つて使用されたる産科用模型は概ね幾多の欠點を有し且つ學生の需用に常に良く應ずるも此にあらず爲めに吾人をして轉た隔靴搔痒の感あらしむるを久しかりき實に革製の胎兒模型ハ彼の最良と認められたるブライ

スミール氏の製造に係るも、雖も尙ほ且つ正當なる胎位、體向、體勢等を示すに、往々困難なき能はず、況んや爾他、不完全なる類似の模型に於てをや、頃日門人ドクトル柴田君斯學を脩めんと欲する者の爲め、一新越向の産科用模型を創製發賣し、以て彼の徒をして時と場所を選ばず、常に練習と複習とを爲すを得せしめんと計れり。是れ實に價値ある美舉にして、世人は是れに由りて、以て容易に胎兒の種々なる尋常位置并に小部脱出の合併等を隨意目前に摸倣するを得べく、又顔面位、前額位、前顛頂位及び斜位等に於ける軀幹縱軸の屈折の如きも、良く

自然の状況を模擬するを得べし、而して體部特に頭部が種々の胎位に於て骨盤を通過するに際し、其最大の周圍徑を取るべき部分ハ悉く點線を以て明示され、加ふるに周圍徑の實數を以てす、故に骨盤内に於ける頭部の位置を明知するは極めて難し、雖も人該模型を用ゆる時は容易に之を了解するを得べく、又適々胎兒娩出法を要する場合に到り、鉗子應用の判決を容易に下すを得べきあり、是れに由りて之れを見れば、該一小模型ハ則ち豫期の如く一篇の産科書中に存せる幾多の圖畫を、良く代償するものなり。

學生ハ云に及ばず醫師と雖も胎兒部分と母體生殖器との關係を速に明知せんと欲する者は柴田君の袖珍模型を以て廉價に且つ便宜に婦人骨盤及胎兒模型を補ふを得べし又該模型は産婆試験用并に復習用に最も適す何ごあれは彼は産婆等受験者の果して種々の胎位體向體勢等に正當なる知識と想像とを有する乎を試むるに好き方便を與ふればなり

余は以上陳述したる原因に由り公に同學の士に向つてドクトル 柴田君の模型を使用せんとを切望せんと欲す

千八百九十一年

ミュンヘン府に於て

エフ、ウインケル

自序

余嘗て獨逸國に留學し民顯府大學產科婦人科醫院教頭
 プロフェッソール、フォン、ウインケル氏に親炙し無給醫
 員を勤めたりしとき遇々學生の臨床講筵に於て胎位體
 向體勢等の診斷を誤る者多きを目撃し以爲く是れ蓋し
 世にシユルツエー氏及ウインケル氏の產科摸型なるも
 のありと雖も如何せん其構造の大なると其價の不廉な
 るこの爲め學校用の外一船學生の複習用等に適せざる
 に職として由らずんばあらずと遂に百方考案を廻らし
 此簡便なる紙製摸型を製出し名くるに Geburtsmodell
 fliche

Taschen-Phantome von Dr. med. K. Schibata.

を以てし恩師ウ

インケル氏に序文を乞ひ獨逸文にて世に公にせしに大に世の好評を博し啻に未だ一ヶ年を経ざるに已に第二版を出さざるを得ざるの好運に到りしのみならず巻末に列擧せるが如く獨逸國に於ける有名なる諸大家より續々賞讚の書を寄贈され且つ獨逸、墺地利、愛蘭土瑞西諸國の醫事に關せる諸雜誌は何れも賛辭を述べざるものなきに到れり今や余は歸朝し吾醫學社會の狀況を觀察するに本邦に於ても亦實地家醫學生并に産婆等の斯の如き簡便なる摸型の必要に感ずると甚た大なるが如

し恰も好し本年第二回日本醫學會の開けるに際し余は之を世に報告したるに世人は之れを聞て一日も早く出版し以つて世の需用に應ぜよと催すと切なりき茲に於て余は原著に訂正を加へ書肆成功堂高後に命じて邦語を以て之れを出版せしむるところはあしぬ希くは同好の士之れを要地に試み以て講學の一助となすを得ば余の幸何物か之れに如かん、

月 日

編者誌

第貳版緒言

本書第貳版ハ曩キニ發行シタル第壹版ヲ聊カ増補訂正シタルモノナリ

著者識

袖珍産科用摸塑

醫學士 柴田耕一著

抑も、産科用摸塑の歴史及沿革を尋ぬるに一千六百九十七年、瑞西國の醫フアンホールン氏、佛國巴里府に於て一摸型を考案し、次で歸國の後産婆學校長に任ぜられ専はら其摸型に就きて産科を教授せしを以て始めます、實に其摸型は眞の女子骨盤と革製の胎兒とより成れり云へり、其後十八世紀に至り英國の醫スメリイ氏は籠細工の綿布を纏絡したる摸型を作り、又獨逸國

伯林府の醫ヘンケル氏は玻璃製の子宮に死胎若くは人形を用ゐて産科諸術を示し後ち一千七百七十年に至り、巴里府の産婆ピエロン子は最も精工を極めたる全骨盤を作り始て之に摸型(Fantome)なる名稱を下し、永く同府の大學に納めたり、維巴維府に在ては、十八世紀の初年、ウエルツブルグ府に在ては、同末年に女子屍體を産科的手術の教授用に供せしとあり、エナ府のスタルケ及ゲツチンゲン府のナシアンデルの兩氏は、子宮胎兒及臍帶等悉く革を以て作りたれども、其價頗る不廉なるが故に、一千八百〇

四年フロリッパ氏は之に代へるに厚紙を以てし、専ら製造を容易にし、需用を擴張するを企圖したり、又佛國のラセーシ氏の模型は母體諸部を容易に迴轉し得べきものにして之れに胎兒を用て産科諸般の状態を示し伯林府エマルチン氏の模型は子宮口として硬革製の圓板に大小各種の孔を穿ちたるものを用ゐ之に由て子宮口擴張の度を示したり、近年に至り巴里府のマテウ氏はビユダン及ピナーの兩氏に倣ひ普通若くは狹小骨盤に於ける外診及び外廻轉術のみならず總ての内手術に至るまで、背位或は側位

に於て容易に行ひ得へき頗る完全なる模型を作り出したり、

目下獨逸國內一般に行はるゝ模型はエナ府の教授シユルツエ氏の發明に係り、之に恩師ウインケル氏の改良を加へたるものにして其構造は諸君子の熟知せらるゝを以て爰に之を略す、

以上列記したる模型は凡て演習用の爲めに製せられ世人は専ら之に依て胎位の診斷及手術等を示し得べきものなり、然りと雖も、彼等は皆其装置の大なるが爲め運搬に不便なること且つ其價の不廉なりこの弊あり、隨て

唯た學校の所有のみ歸し、一般學生等の自用に適合ざるを遺憾とせり、

其他クラインウエホテル氏の紙製模型なるものありと雖も、是れ又僅に頭蓋位各種に於ける頭部の變形を示すに過ぎざるあり、

余は産科用模型に必要を感じると同時に從來世に用ゐらるゝ模型は不廉且つ不便は甚大なるを感じしと爰に歲あり、嘗て獨逸國民顯府に在りし時百方考案を廻らし、遂に此に輕便なる一小模型を製出し、之を獨逸文に著述し世に公にせしに大に世に好評を博し未だ一ヶ年な

らざるに己に第二版を出さざるを得ざるに至れり、抑も余が之を製出したる主意は學生産婆及醫師等をして最も單簡に、胎位、體向、體勢、等を了解せしめんと欲するに外ならず、何となれば之を識ること識らざるは産科學上豫後及び治療に最大關係を有すればなり、夫れ然り故に余は模型ハ専ら輕便を主とし、厚紙を以て自然大の三分比一に作りたる骨盤一個と胎兒二個とより成れり、而して其頭部四肢及軀幹は悉く自在に廻轉するを得べく、且つ甲の胎兒（則ち側面のもの）は直位各種の用に供し、又乙の胎兒（前面のもの）は斜位則ち横位各種の用に供す、

頭部各處の周圍徑は多くの産科書中に記載されざるを以て、余は之をワインケル氏の産科書中より抜粹し、示すに點線を以てし、傍らに其實數をも合せ記載せり、此模型を使用せんに、先づ胎兒を取り出し、（直位のものを作らん）欲せば乙の胎兒を用ゆべし、卷尾に固着しある骨盤内へ挿入し、先づ其頭部を或は骨盤入口部、或は骨盤最廣部或は骨盤下口部に置き以て頭部の占むべき骨盤内の部位を定め、然る後諸般の位置を作るべし、

胎児の位置に三種あり

(第一) 体勢又体状 (Haltung, habitus)

(第二) 体向 (Stellung, positio)

(第三) 胎位 (Lage, situs)

(第一) 体勢又体状

体勢とは胎児の軀幹、頭、及四肢の諸体部相互の關係を云ふものにして通例胎児の子宮内に在るや、軀幹は前方に甚しく屈曲し、頤部は胸部に接近し上膊ハ胸部の側方若くは其前方に在り、前膊は大抵屈折して胸部の前方に於て交叉するか若くは併置するを常とし、下肢

は通常其膝關節に於て屈折して以て下腹部に近接し足部は足關節に於て強度の伸展を爲し、其左右の蹠面は互に對向す、

臍帶は通例上肢と下肢との間に位す、
以上は尋常の体勢にして分娩時に至る迄は大抵變化するとなきものとす

(第二) 体向

体向とは兒体の前置せる部と骨盤腔(骨盤徑)との關係を示すものなり例へば頭蓋位にして兒背母体の左側にあるときは之を頭蓋位第一体向と云ひ右側に在るとき

は之を頭蓋位第二体向と云ふ更に之を省略して第一若くは第二頭蓋位と稱す、又斜位(即ち横位)に在りて兒頭左側に位するときは斜位(横位)第一体向と云ひ右側に位するときは斜位(横位)第二体向と云ふ、更に之を省略して一般に第一若くは第二斜位と稱せり、又兒背の前後の位置に依て分類を定む即ち斜位に在りて兒頭左側に位し而して其背部前方に位るときは第一斜位の甲(第一斜位)と稱し、若し之に反して背部後方に位するときは第一斜位の乙(第二斜位)と稱す

(第三) 胎位

胎位とは胎兒縦軸及び子宮縦軸相互の關係を云ふ者に於て、若し二者殆ど同一の方向に在るときは之を直位或は縦位と稱し、又胎兒軀幹の兩端(頭或は骨盤端)の前置に由り更に之を頭顛位及骨盤端位に區別し、而して若し胎兒及び子宮の兩軸互に多少の交叉を爲すときは之を斜位若くは横位と稱す

第一 直位 (Geradlagen)

(甲) 頭顛位 (Kopflagen)

頭顛位を分つて頭蓋位 (Schädelagen) 顔面位 (Gesichtslagen) 前頭位 (Stirnagen) 前顛頂位 (Vorderscheitel-stellung) の四者

とす、

(一) 頭蓋位とは第一圖の如く前章に記載する通常の体勢を以て兒頭の骨盤上口部の上に位するものを云ふ、分娩百中の九十三乃至九十五は皆此頭蓋位にして、就

中歐洲各國に在り

ては兒背の左方に

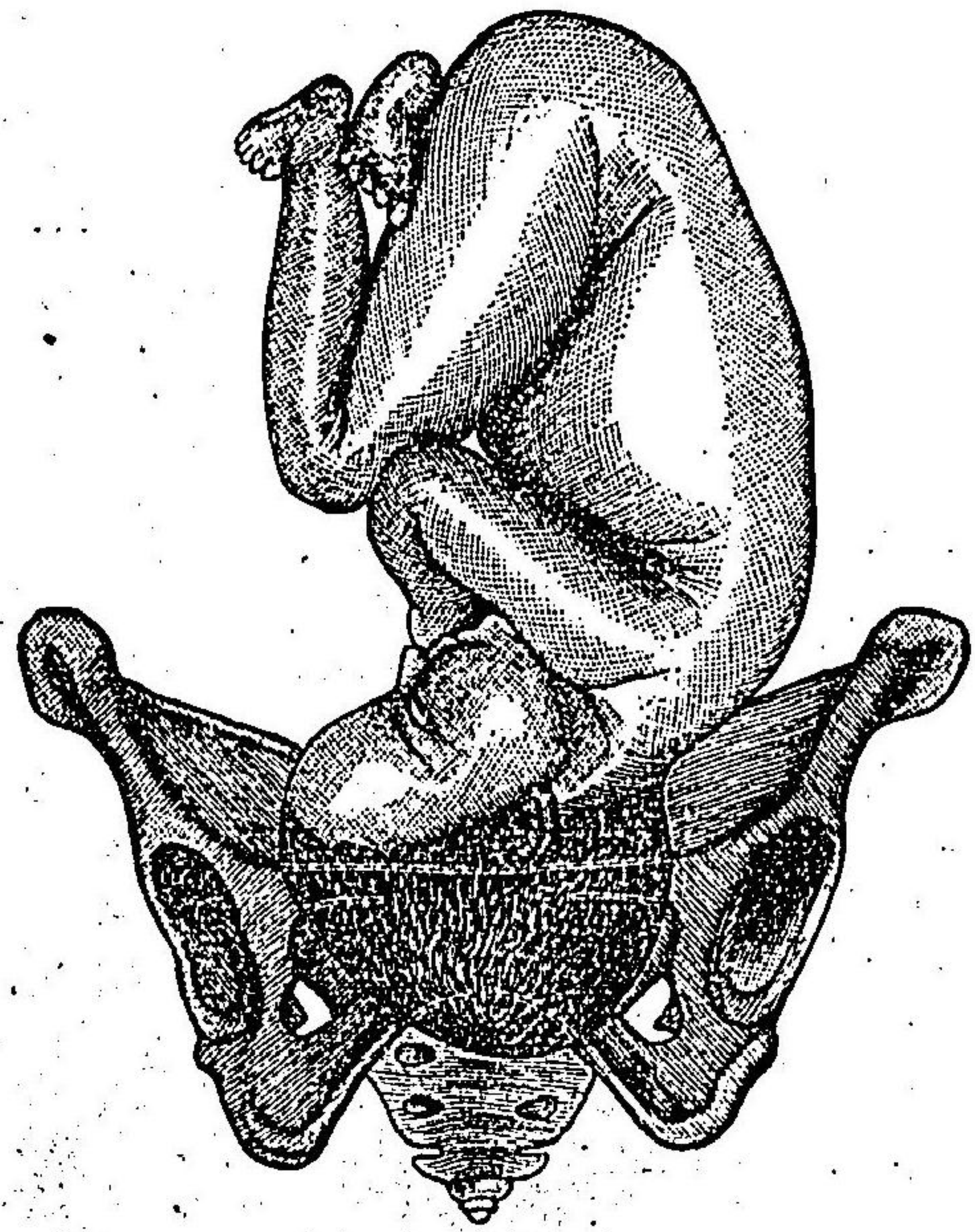
位する所謂第一頭

蓋位最も多數を占

め、第二頭蓋位よ

り多きと殆ど二倍

第一圖 第一頭蓋位



に達せり

第一頭蓋位に在りては兒背は母体子宮の左側に位し、

四肢ハ其右側に、而して臀部は子宮底部の左方に位す

るも此にして、胎兒心音は臍及び左腸骨前上棘間の中

央部に於て聴取するを得べく、頭部は分娩の初期に當

ては横徑を取り小聴門は左方に大聴門は稍少く右上方

に位するものなり

第二頭蓋位に在りては、兒背は母体の右側に位し多く

は少く後方に向ひ、兒足は左上方に左り、胎兒心音は右

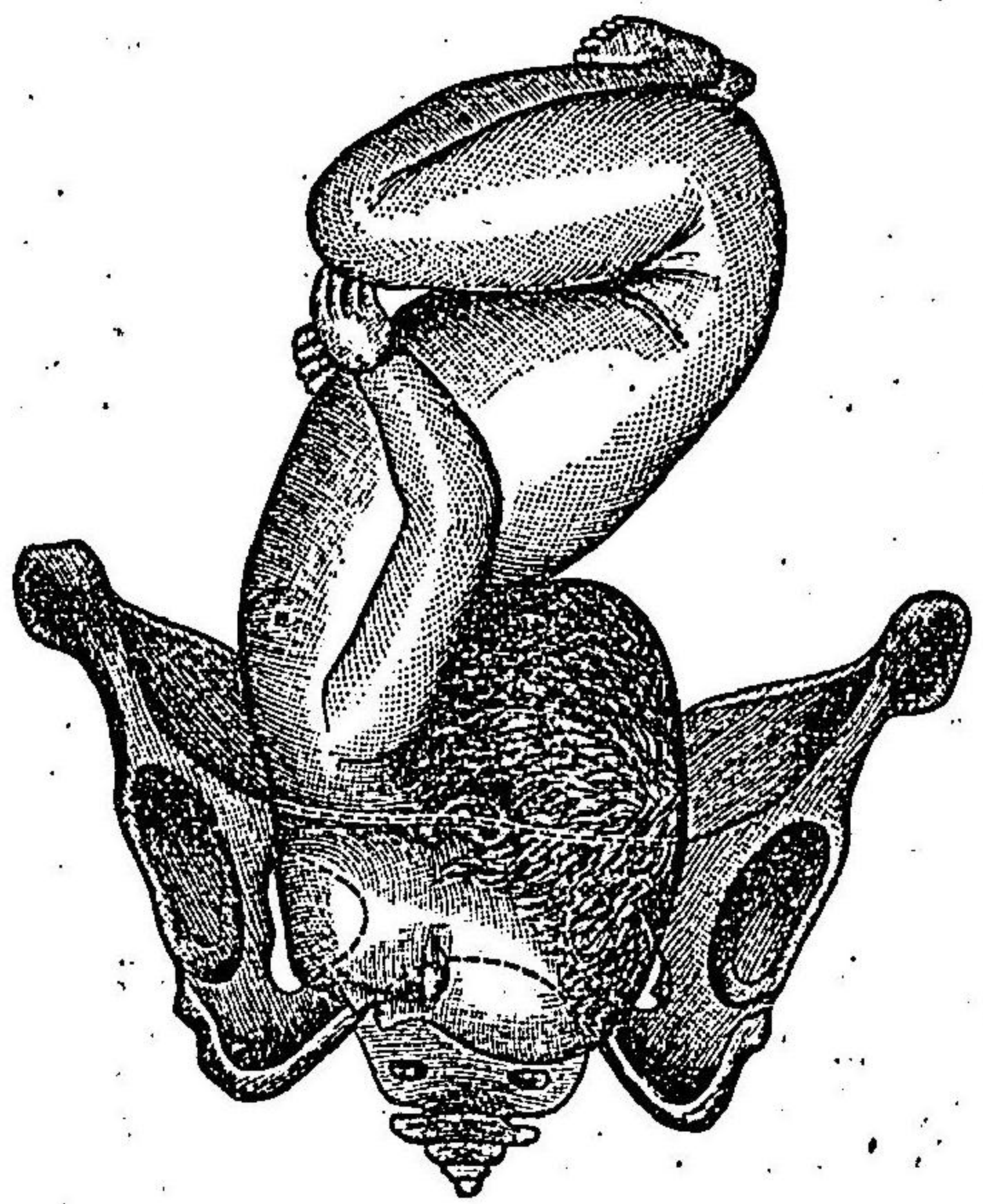
側に於て特に臍下凡そ一手掌幅の處に於て聴取すべく

小聰明は右方に位し數々分娩初期に在りては後方に位せり、而して大聰明は稍上方にありて且つ數々前左方に在るが故へに兒頭の小斜徑 (Der kleine diagonale Kopf-durchmesser) は骨盤の第一斜徑に併行するものなり (第一右斜徑とは右薦腸骨關節より左腸耻骨結節) に至る假線を云ふ其距離一二五仙迷なり)

(二) 顔面位 (顔面向) は元來頭蓋位の變向したるものにして、即ち顛部の胸部より遠かり、後頭部の頂部に近づき以て顔面の大部をして前置せしむるに至りしものなり、胎兒心音は頭蓋位に於る如く、兒背の存在する一側に於て聴取せしめずして、反つて其對側即ち四肢の在

る一側の臍下に於て聴取せしむ、更に顔面位を分て二とす

第一顔面位 第二圖



第一顔面位 (第二圖を看よ) 前章に於て已に説明せしが如く胎位中最も多數を占むる所の第一頭蓋位に在りては、兒背若くは後頭部は左側を占むる所、而して顔面位は素と斯の如き頭蓋位に於ける兒頭の後頭部骨盤に支へられ、隨つて

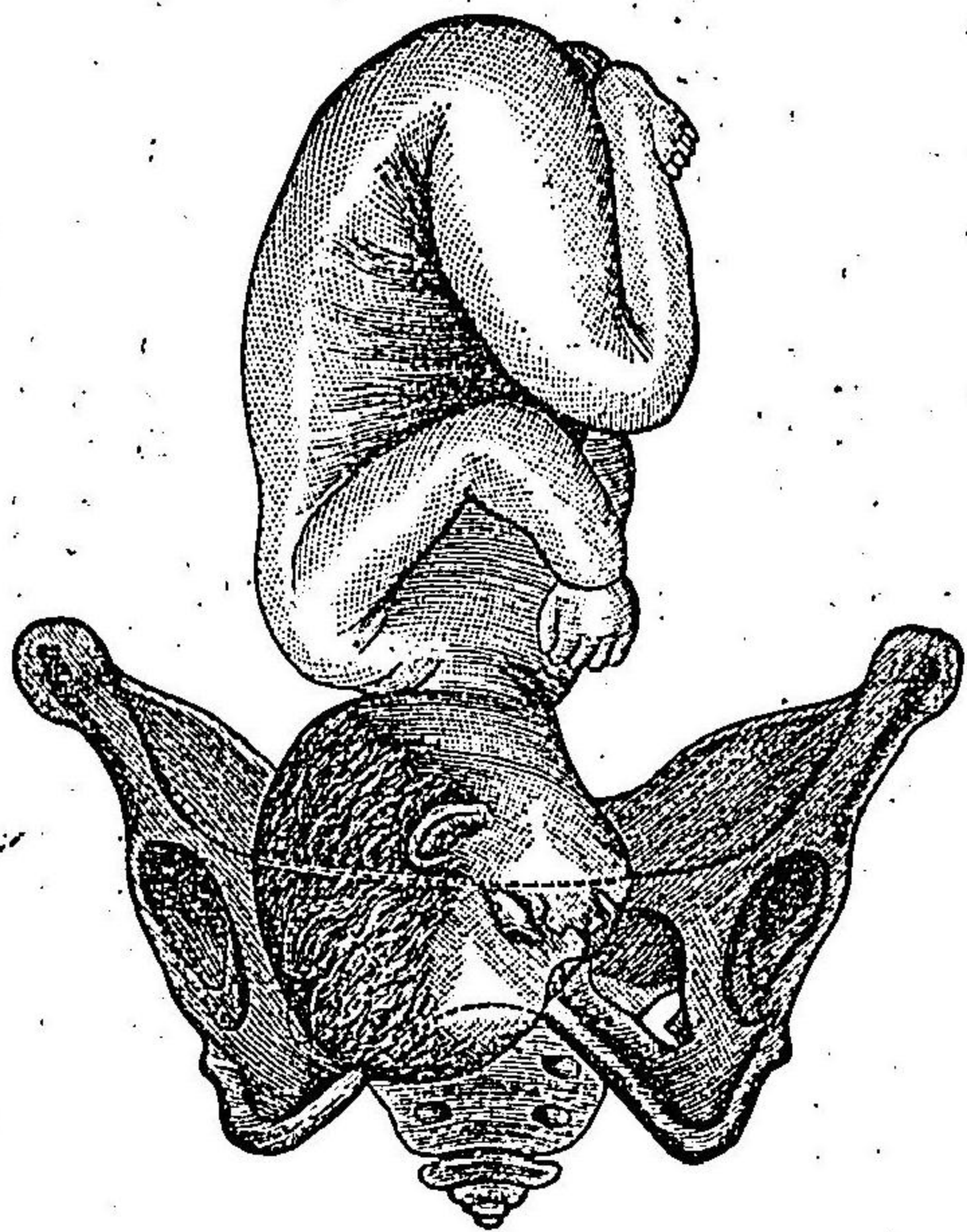
兒頭が自家の横軸を廻轉し以て成るものなるが故に顔
 面位は在りても亦此の如きものは第一顔面位と名けら
 れ、且つ最も多く吾人の遭遇すべきものは前額が全く
 母胎の左側に向ひ、或は少く前方に又時として後方に
 向ひ願が其の右側に向ひ或は少く後方に又時として前
 方に向ける所の顔面位を以て然りとすものなり而し
 て該場合に於ては顔面の右半側は胎兒の最下部を取る
 ものにして此胎位にて分娩したる胎兒は、顔面の右側
 殊に右口角部及右觀骨部に於て血瘤を認めしむ、又臀
 部は子宮底の左側、四肢は右側に位して其背部は斜に

左上方より右下方に走り胎兒心音は臍下の右側に於て
 聴取せしむ

第二顔面位此胎位に在りては、兒育は右方に、小部（四
 肢）は左方に位し、臀部は子宮底の右側に存し、心音は
 臍下の左側に於て聴取せしむ、而して顔面は分娩初期
 に至る迄は横位を取り願は或は全く左方に在るか或は
 多少前左方に在りて前額は之れに反して或は全く右方
 に在るか或は多少後右方に在るを常とす該場合に於け
 る前置部は顔の左半部とす

(三) 前頭位(第二圖を見よ)該胎位は則ち頭蓋位及び顔

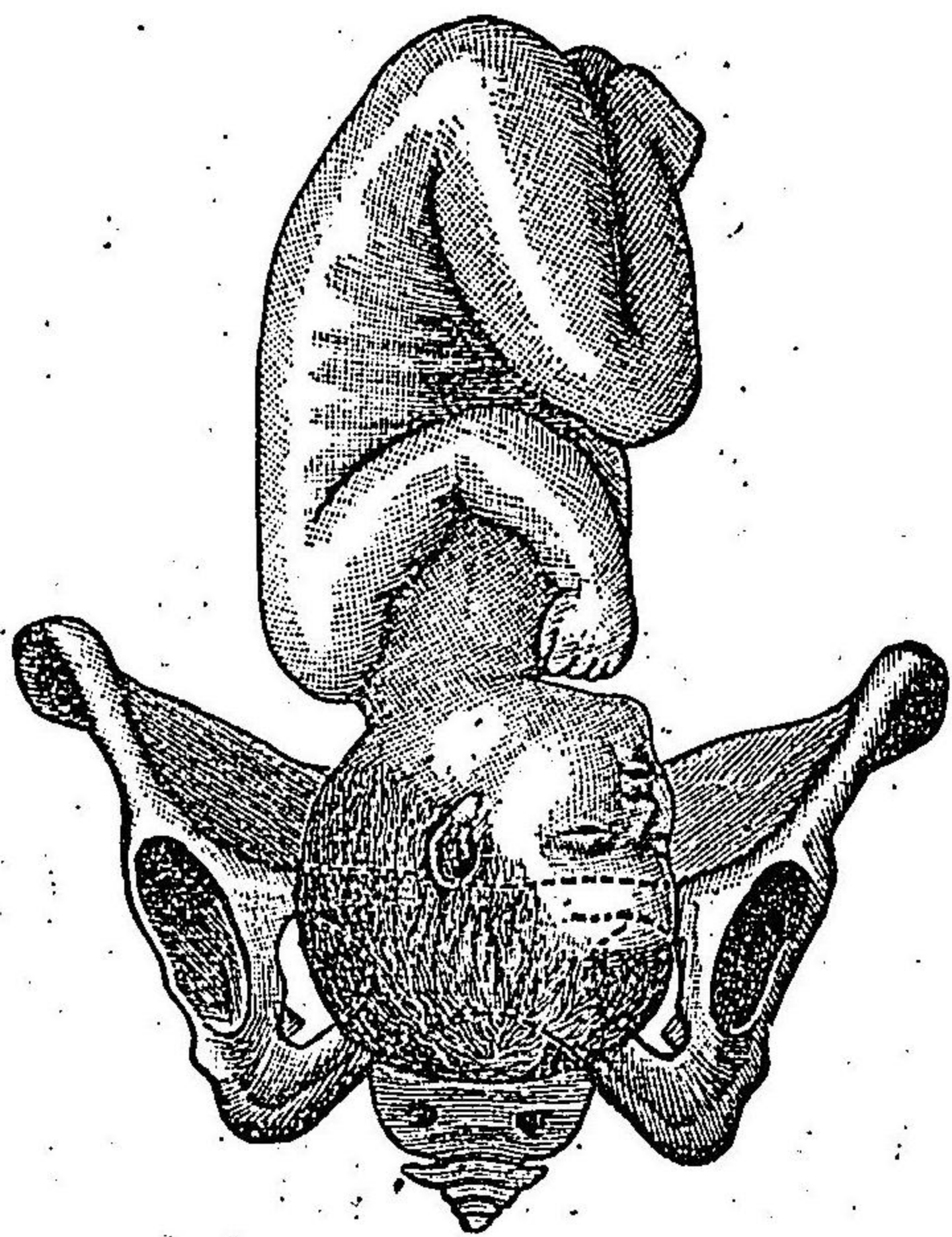
第三圖 前頭位



前部と共に骨盤の二側に在り而して鼻根眼窩縁及び其他の顔面部は他側に在り、前頭縫合は骨盤の横徑或は斜徑を取るものなり

(四) 前顛頂位(前顛頂向)(第四圖を見よ)是れ決して著

第四圖 前顛頂位



後頭部が前方に廻轉せずして反て後方に向ふて廻轉し隨て會陰部を超過するに在り然れども後頭部其以前より已に後方に向ひたるも往々なきに非らず雖も此の如きものは後に至り前方に轉位するものなり而して此

規則に従はざる破格の場合あり、雖も是れ決して兒背が子宮内に取りし本來の位置を以て説明するを得ずして寧兒背側方に止まりて獨り後頭部のみ後方に轉位するに由て説明すべきなり、何こなれば兒背は頸部の廻轉に伴ふて頭部と共に動くを要せざるを以て後頭部が前方に廻轉するこきと雖も兒背は常に子宮の側方へ傾ゆるご同一理なればなり、故に前顛頂位は頭蓋位へ於ける器械的働作の一破格と認むべきものなり

(乙) 骨盤端位 (Beckenendlagen)

骨盤端位は其前置する諸部の異なるに由て各其名稱を

異とするこき左の如し

(一) 臀位 (Steisslagen)

(イ) 第一臀位 此の胎位に在ては第一頭蓋位に於けるが如く、兒背は左側へありて頭部は一大圓塊となりて子宮底の右側に於て觸れしめ、左臀部は前方に向ひ、肛門は骨盤入口部の中央に位し、而して肛門溝は骨盤の横徑若くは第一斜徑を取り隨て兒体股關節の横徑は第二斜徑を取れり (第一斜徑又は右斜徑とは右薦腸骨關節より左腸左斜徑とは之を反して左より右に走れるものなり) 耻骨結節を以て第二斜徑又は心音は腹部の中央即ち臍部、若くは少しく其上方に於

て聴取するを得べし

(ロ) 第二臀位 此の胎位に在りては兒背は、右側に位し兒頭は子宮底の左側に存し、而して胎兒心音は臍部、若くは其上方の部にして少しく外側に偏し即ち子宮の左側壁に於て聴取するを得べく胎兒尾骶骨部は右方に肛門は左方に在りて、而して肛門溝は骨盤第二斜徑を取り、又兒体股關節横徑は骨盤の第一斜徑を取れり、右臀部は此場合に於ては前置せり、故に分娩後其部及び生殖器部に於て多少の兒血瘤を認めしむるものあり

(二) 臀足位(第五圖を見よ) 此の胎位は畧ほ臀位と其趣を同するものにして唯だ足部が臀部と同時に前置する別あるのみ

(三) 足位 此の胎位にありては一足若くは兩足の前置するに由りて甲を不全足位と稱し乙を全足位と稱す

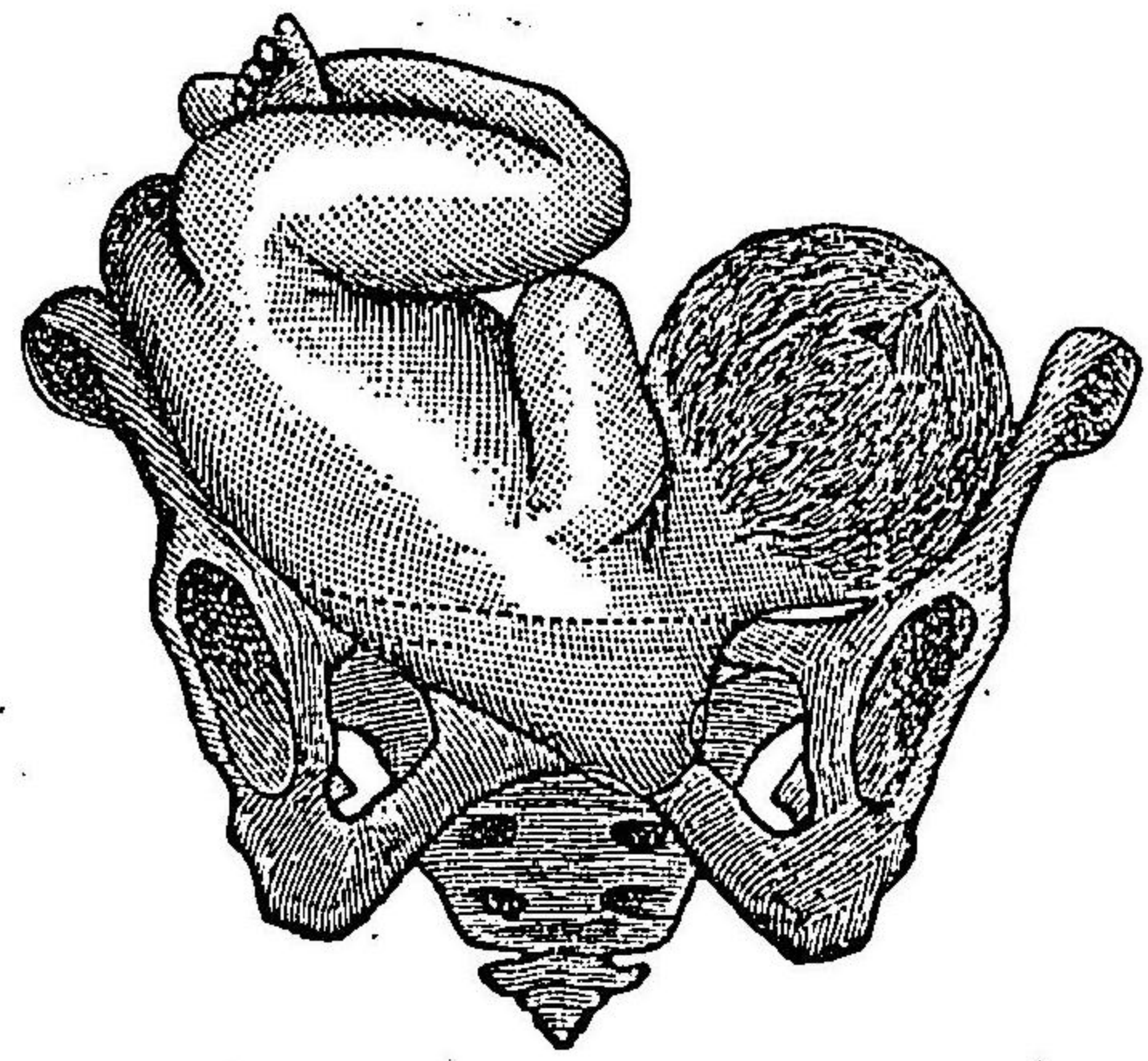
第五圖 第二臀足位



(四) 膝位 此の胎位は兩膝部の前置するを云ふ

第二 斜位又横位 (Schieflagen, Querlagen)

第六圖 第一斜位第一分類

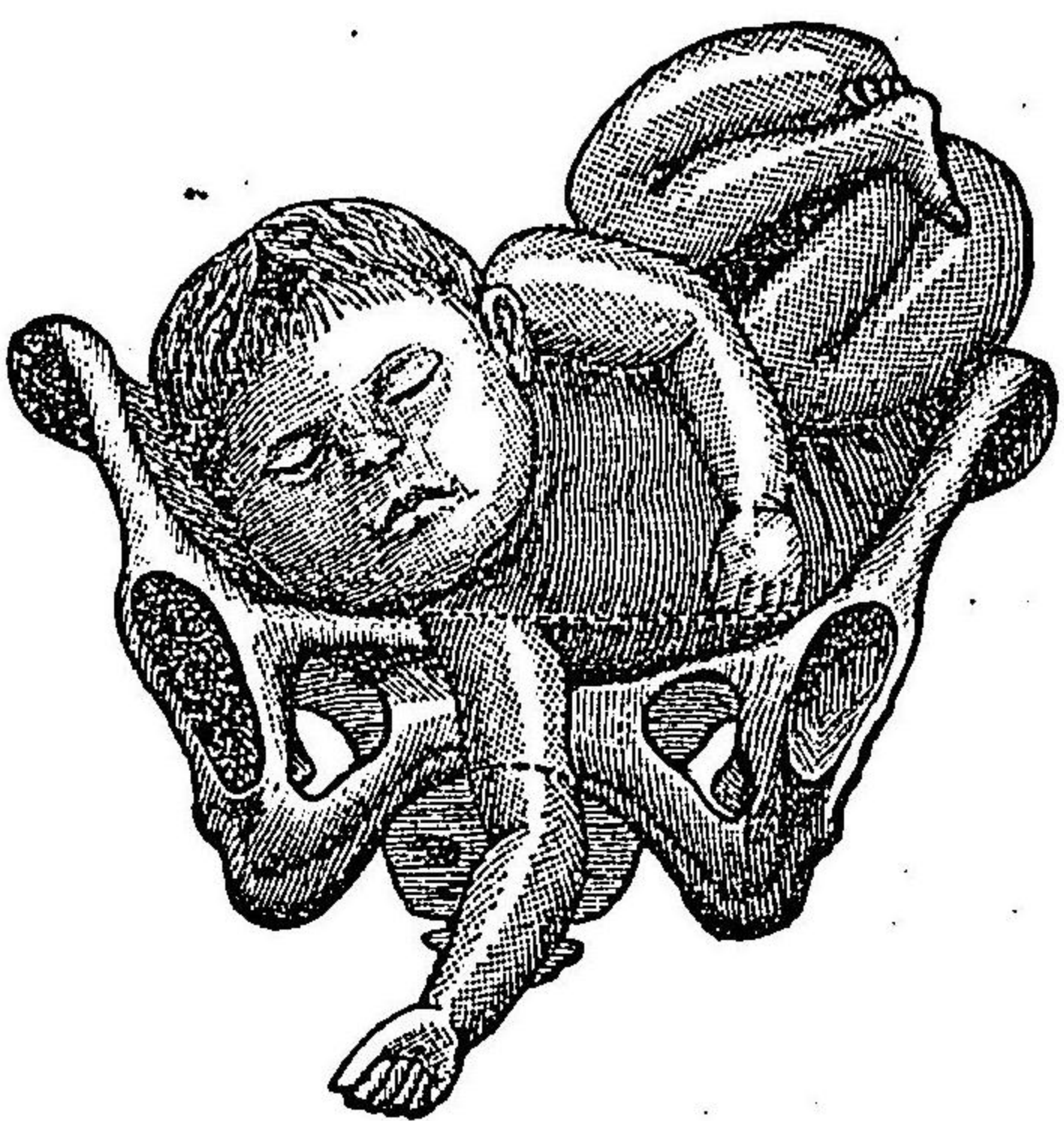


(先肩右リアニ方左頭兒) (ス示チノモルタシ進)

凡て前條の說明したる直位則ち頭蓋位及骨盤端位に在りては胎兒の縱軸子宮の縱軸と併行するものなれども斜位に在りてハ之れを反して二軸多少の角度を以て交叉し隨て胎兒縱軸は子宮内に於て子宮の斜軸若くは甚だ稀に横軸を取るに至る故に之を名けて斜位若くは横位と云ふ、(第六圖を見よ) 此の胎位にありては頭部は大低臀部より少しく下方に位し、而して

臀部は子宮底部に近接す故に若し小部の脱出することあれば必ず先づ其上肢なることを椎知し得べし、頭部は子宮の一侧に臀部は他側に位し、兒背は前方に向ふか或は後方に向ふことあり又前置する部は大低肩胛の一部若くは一腕若しくは一手なりとす、兒背の方向は其前置部に依て豫定することを得べく、心音は斜位の各種に由て其位置を異にするものにして兒背若し前方に向ふときは通常耻骨縫際上部に於て聴取するを得べしと雖も兒背若し後方に向ふときは、間々生胎兒に於て心音を聴取し能はざることあり、而して此の如

第七圖 第二斜位第二分類



き場合には前置せる上肢の脈搏を觸診して以て胎兒の生死を檢知すべきなり

第一斜位及び第二斜位の別は兒頭子宮の左側に在るご右側に在るごに由て之を定

め又兒背の前方に位するご後方に位するごに由て甲乙(第一分類及第二分類)の二種に區別するものなり今以上の諸胎位を最も簡單に示さん左の如し

胎位

第一 直位又縦位

(甲) 頭顱位(頭位)

(一) 頭蓋位(後頭位)

(二) 顔面位

(三) 前頭位(額位)

(四) 前顱頂位

以上の各胎位にありて兒背若し左側に在り其小部右側に在るごき第一位ごし、若し之れに反して兒背右側に在りて其小部左側に在るごきは第二位ご稱するものなり

(乙) 骨盤端位

(一) 臀位

(二) 臀足位

(三) 足位(全、不全)

(四) 膝位

以上の諸胎位に於て若し兒頭右側に兒背左側に左臀部前方にあるときは第一とし、之れに反して若し兒頭左側に、兒背右側に、右臀部前方にあるときは第二位とす
第二 斜位(横位)
兒頭左側にあるものを第一斜位とし

兒背前方にあるものを甲又は第一分類とし

兒背後方にあるものを乙又は第二分類とす

兒頭右側にあるものを第二斜位とし

兒背前方にあるものを甲又は第一分類とし

兒背後方にあるものを乙又は第二分類とす

終に臨んで一言すべきは恩師民顯大學産科院長樞密醫官、プロフ、エッソル、ドクトル、フナン、ウ井ンケル氏が此摸型を作るに際し懇切なる補助を與へられたるこ此小冊子の巻首に於て同氏自ら序文起草の勞を取られたることを深く謝す

該模型一度世に出るや歐洲諸國の産科婦人科専門の大家は續々著者に向けて賞賛の書を寄贈し又た醫事に關する新聞雑誌は先きを競ふて賛評を紙上に掲載したりき今其重要なるものを茲に譯載して以て該模型が歐洲に於て博したる好評の一斑を示さむと欲す

諸大家書翰の和譯

(一) 伯林大學産科婦人科教授ドクトル、ア、マルチ

ン氏の書翰

拜呈陳者産科袖珍模型御惠與被降恭く受納仕候實は該模型の學生と醫師との爲め莫大なる恩賜なることを千萬保證仕候也拜具

千八百九十一年二月三日

ア、マルチン

尊敬する同僚柴田君

(二) エルランゲン 大學產科婦人科教授ドクトル

フロンメル氏の書翰

拜呈貴下御考案の袖珍模型御送與被下奉深謝候右は産科學教授上甚だ有力なる要具と信じ候に付拙者は拙者の講筵に於て遍く稱賛致可申候
頓首

千八百九十一年三月四日

フロンメル

尊敬する同僚柴田君

(三) ロストツク 大學產科婦人科教授樞密醫官ドク

トル、シヤッツ氏の書翰

模型の御惠與を蒙り拜謝の到に候學生及醫師の之を利用して其恩澤に浴する者の多きは拙者の萬々保證する所も御坐候實も亦數年來兒頭の位置を成るべく明瞭に模倣せんか爲め類似の紙製模型を造り寫眞を用ゐて器械的作用を示せしが將來拙者は貴君の模型を稱用致し度
存候拜具

千八百九十一年三月五日

シヤッツ

尊敬する同僚柴田君

(四) ストラースブルグ 大學產科婦人科教授ドクト

ル、ハ、フロインド氏の書翰

拜啓貴下御高案の袖珍模型御寄贈に預り喜悅の到りに候右は甚だ實用

に適するものと信じ候に付早速明日の妊婦診察時を俟て之を同僚并に
聴衆に示し大に稱賛可仕候拜具

千八百九十一年三月二日

ドクトル、ハー、フロインド

尊敬する同僚柴田君

(五) ライプチヒ大學産科婦人科教授ドクトル、ゼ

ンゲル氏の書翰

拜呈貴君の御考案に成れる模型御惠與被降難有深謝仕候該模型の速に
世の好評を博するは拙者の信して疑はざる所は御座候(中略)拙者は本
日拙者の講義に際し貴君の模型を聴衆に指示し且つ稱賛致度存候拜具

千八百九十一年三月二日

ゼンゲル

同僚柴田君

其他チユーリヒ大學産科婦人科教授ドクトル、ウイー
デル氏ギーセン産科婦人科教授ドクトル、ロエライ
ン氏ミュンヘン府産科婦人科専門ドクトル、エル、チイゲ
ンスペック氏等の書翰は皆な大同小異なるを以て略す

新聞雑誌の賛評

(一) 維也納醫事雜誌千八百九十一年第三十四號
(Wiener medicinische Presse NO. 34. 1891.)

凡そ袖珍書籍の中にて目下ミュンヘン府ウ井ンゲル氏の「クリニツク」
に於て脩業しつゝある日本の醫ドクトル柴田氏の考案に成れる産科用
袖珍模型は産科學演習に最も適宜且つ輕便なる装置と云ふも決して不可
なかるべし

一個の骨盤と二個の胎兒とは紙を以て自然大の三分の一に製せられ其動くべき頭と四肢とは動くべき軀體と關節とよ由りて連繫され而て此簡便なる装置は良く各種の胎位及其器械的運動を明示するを得べきなり

簡便と適節と廉價とは正に教授ウヰンケル氏の稱賛せる序文と著者が日本特有の精巧に依りて造りたる模型とを欺かず多くの産科初學者をして之を利用せしむるに到ると蓋し日を期して竣つべきなり

ブロイス誌

(二) 婦人科中央雜誌 千八百九十一年第三十七號

(Centralblatt für Gynaecologie No. 37. 1891.)

一種の産科教授用の模型を製出して以て何れの時何れの所を問はず常

に學生をして演習及び復習に之を使用せしめんとすの柴田氏の希望は遂に其目的を達したり(中略)該書は廉價にして模型の圖書に極めて精巧なり茲を以て學生及び産婆等の産科修業の爲め必ず之を使用するに到ると蓋し疑ひを要せざるなり

伯林 カルルーエマン誌

(三) 大英國愛蘭士ダブリン府醫學雜誌

(The Dublin Journal of medical science 3. series.

No. CCXXX VIII. 1891.)

(前略)惟ふに著者の目的は運搬に至便なる人形と骨盤とを最も廉價に製出し以て各學生の需用に適せしめ且つ同時に之を産科の指示教授の實用に供せんと欲するに在り而て該模型の構造は注意周到一も間然す

る所なし他日其産科初學の學生及産婆等の間に莫大なる需用者を得るは記者の保證する所なり

(四) 獨逸醫事週報 第千八百九十一年 第三十四號

(Deutsche medicinische Wochenschrift No. 34.1892.)

ミュンヘン府レーマン書舗の出版に係る東京出身ドクトル柴田氏の産科模型は學生と醫師とに最も必要なる小冊子なり而て其實用に適するはミュンヘン府ウケンクル氏が序文に於て大に賞賛したるに徴して明白なり

(五) 民顯醫事週報 千八百九十一年 第十一號

(Münchener medicinische Wochenschrift No. 11. 1891.)

診斷學を教授するに當りては宜く先づ學生をして其想像を容易ならし

めざるべからず而て之を爲す惟だ種々なる診斷法にて知了したる事實を或は略圖に畫し或は解剖的標本若くは其模造品を指示して以て説明するに如くものなし

從來産科學の教授には殆んど常に骨質骨盤と人形若くは死胎を使用せり然るに學生にして如斯物体を所有する者殆んど稀れなり且つ又た學生にして獨習に際し或は講筵に於て不審の事件に遭ふ毎に未だ嘗て直ち之を明瞭にせるの要具に乏きを嘆せざる者なかりき

今や柴田氏の産科模型の良く如斯欠點を補ふを得たり即ち世人は之れより由りて各種の胎位体向及体勢を甚だ容易に模擬せるを得べきなり實に是れ産科學教授上は勿論實地上に於ても鴻大なる便益を興ふるものなり

スツンプ誌

(六) フアルツ洲しやうしやう醫會いけい雜誌 千八百九十一年第七號

(Vereinsblatt der pfälzischen Aerzte No 7. 1861.)

ドクトル、柴田氏はシユルツコーウケル氏の大模型の代りに厚紙を用ゐて自然大三分の小模型を製出したり實に異常産に於て胎兒諸部と産道との關係を迅速に明知するは蓋し多くの醫師の甚だ難しとする所なり著者の深く此點に注意し極めて單簡に最も確實に此難事を除くを得たり(中略)該書の價值あるはウキンケル氏の適節なる序文に徴して明かなり

グー ト 誌

其他うのたライプチヒ府ふ醫事新聞いしんぶん(Reichs-medizinischer Anzeiger,

Leipzig No. 12. 1891) 醫師同盟新誌いしどうめいしんし(Aerztliches Vereinsblatt

No. 230. 東京醫事新誌とうきやういしんし第百七十八號、醫學進步いがくしんたほ (Fortsch-

ritte der Medicin, Heft 14, 1891) 及び瑞西醫師同盟雜誌およびせいたんし(Cor-

respondenzblatt für schweizer Aerzte) 等らうにも該模型このもけいを賞賛しやうさんす

るの評論ひかやうろんを掲げたり併しかし之こを悉ことごとく茲こゝに譯載やくさい或は轉載てんさいするも益えきなければ之こを略りやくす

略字説明

骨盤

イ……………薦骨岬

ロ……………耻骨縫合

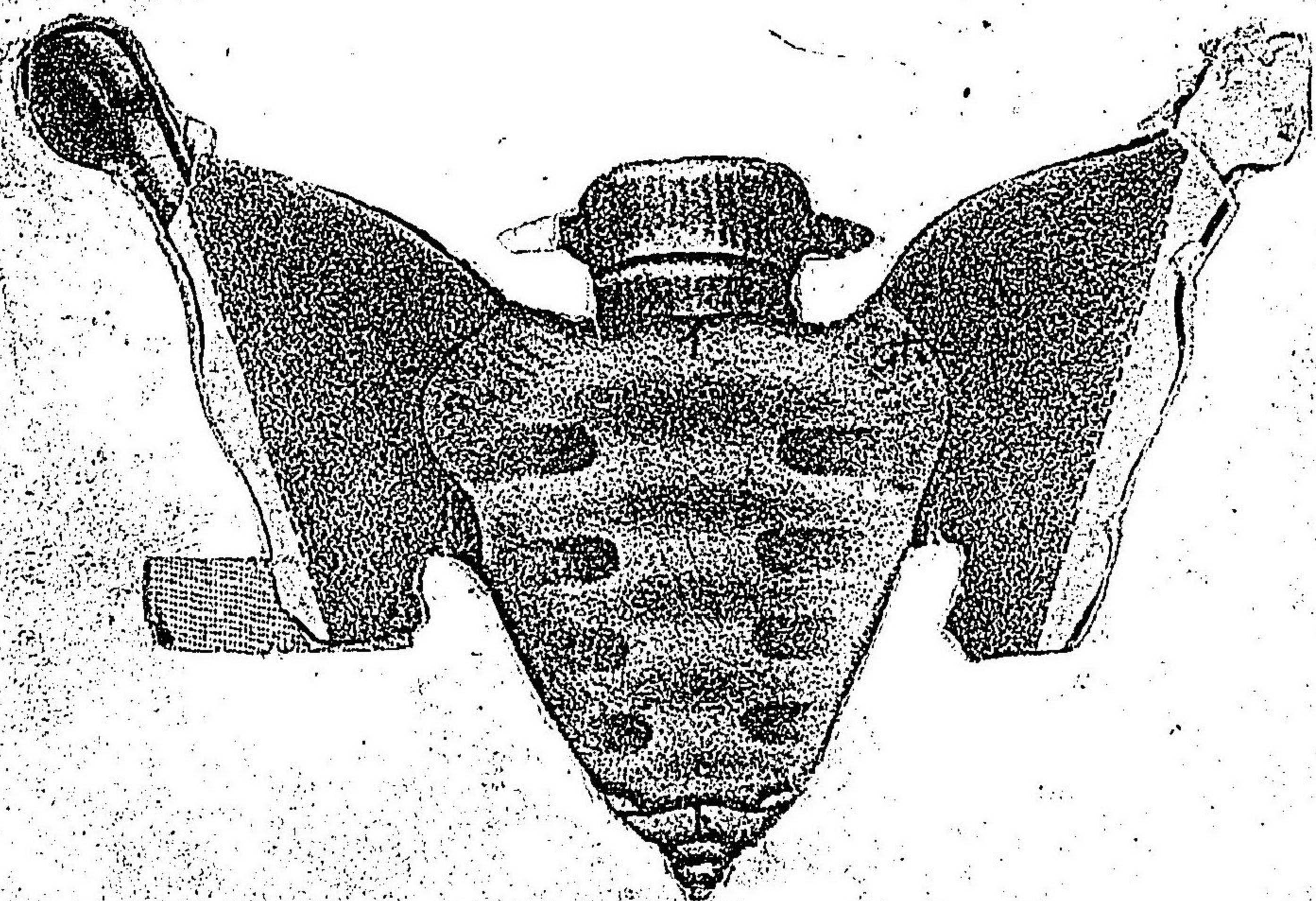
ハ……………腸骨前上棘

ニ……………腸骨節

ホ……………薦腸骨關節

ヘ……………坐骨結節

ト……………尾骶骨



年八月六日印刷
年八月十二日發行
四年四月廿九日再版印刷
治卅四年五月一日再版發行

實價金七十五錢

著者 柴田耕一

愛知縣名古屋市武平町二丁目廿六番戶

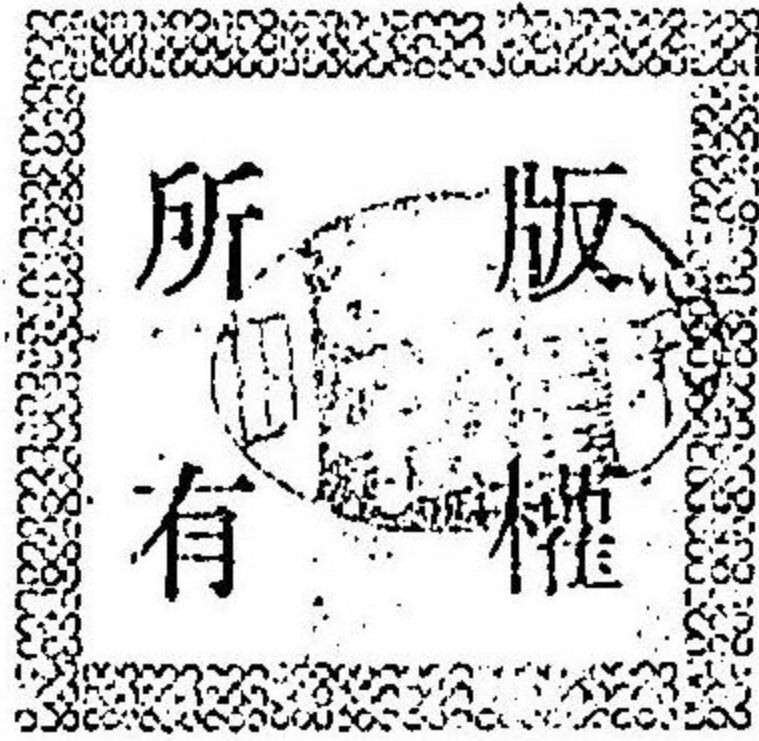


發行兼印刷者 高後轍

東京市本郷區弓町二丁目廿五番地

印刷所 三浦活版所

東京市日本橋區大傳馬町二丁目十番地



東京市本郷區弓町二丁目廿五番地

發兌元 成 功



幼科全方 第二版 正價 金七拾五錢

本書ハ專ラ獨逸國ノ小兒科大醫シルベルマン氏ノ著書ニ就テ譯述シ
於テ諸小兒科書及諸雜誌ヨリ拔萃シルモノニシテ小兒病ノ治則及ヒ處方、小
兒生理的、總則、治療法ヲ増補セルモノニシテ實地醫家ニ於テ一日モ缺ク
可ラサル必要ノ良書ナリ

前文部大臣西園寺侯題字
醫科大學小兒科教授醫學博士弘田長先生校閱
醫科大學卒業醫學中井龍之助先生纂著

育兒必携 第二版 賣價 金拾八錢

本書ハ醫學上育兒の方子そたての葉なれば、易に了解し得可
且つ斬新有益なる事項を多く記載したる者なれば、世の育兒家諸君一本
を座右ニ供られよ

爾氏解剖圖譜

解剖圖ノ世ニ行ハル、モノ少ナカラスト雖、凡多クハ縮圖ニシテ實物大
●胸部内臟圖七枚 ●縱曲尺貳尺
●横壹尺五寸五分 ●用紙舶來上
等質 ●着色精巧 ●印刷鮮明 ●堅
牢美觀 ●送費金廿五錢
遞送費金廿五錢

ノモノナキハ識者ノ遺憾トスル所ナリ本圖ハ醫學社會ニ於テ最モ賞用
セラル、**「るしゆか」氏ノ原圖ヲ基礎ト爲シ細大共ニ洩スナク模寫シタ
ルモノニシテ眞ニ實物大ノ着色圖ナリ其精巧緻密ナルト印刷ノ鮮明ナ
ルハ更ニ喋々ヲ要セスシテ明ナリ一見之ヲ繙カハ殆ント實物ニ對スル
ノ感アラシク眞ニ卓然新機軸ヲ出セル最良ノ解剖圖ト謂ハサル可ラス
フ實地醫家學生諸君陸續購求アリテ座右ノ好資料トシ給ハンコテ茲ニ
謹告ス**

醫學士佐藤勤也先生譯補

衛生檢查法導綱 全貳冊

○上卷(自第一編至第四編) 賣價金五拾貳錢 郵稅四錢
○下卷(自第五編至第八編) 賣價金六拾四錢 郵稅六錢

細菌學業府 全一冊 紙數三百餘頁用紙舶來菊判春金子美本
正價金 壹圓五拾錢 郵稅 金拾錢

微菌學ノ切要ハ日ニ益々加リ今也醫家ハ勿論農家、工家等苟モ日新學
 理ノ應用ヲ要スルノ徒ニシテ指ヲ斯學ニ染メスシテ人後ニ立タサラン
 ト欲スニ難キニ至レリ東京顯微鏡院々主兼講師遠山椿吉氏カ早ト
 身ヲ斯學ニ委ネ蓄蓋ノ深キ一世ノ知ル所ナリ本書ハ氏カ曩年醫科大
 學ニ在リシ當時ヨリ以來近時ニ至ルマテ研究シタル著論數十篇ヲ
 先キノ同院助手長谷川一詮氏ノ蒐輯シタルモノニシテ全篇悉ク著者カ
 慘憺刻苦ノ精神ヲ集メ、實試實驗ノ結果ニ成レル一大業府ニシテ其
 自カラ世間滔滔々タル譯書ト同シカラス凡ソ斯學ニ志アルノ士冀クハ一
 讀以テ學者經營ノ真相ヲ觀、亦以テ斯學研究ノ資料ニ供セラレシ
 醫學士トクトル柴田耕一先生考案

紙製產科摸型 第二版 自然大三分ノ一 胎兒二個
 骨盤一個 洋裝袖珍美本
 賣價金七拾五錢 郵稅金四錢

該摸型發行以來大ニ產科諸大家ノ賞賛ヲ博シタルハ英文ニ譯サレタル
 一事ヲ見テモ敢テ喋々スルヲ要セス今ヤ第二版ヲ出スニ至レリ實地醫
 家醫學生及產婆諸君一本ヲ坐右ニ供ヘラレ臨機產科學上ノ要素ヲ目前
 ニ摸倣シ以テ鴻益アル眞價ヲ知ラレヨ
藥局藥瓶標箋 第六版 賣價金四拾八錢
 郵稅金四錢
 弊堂先キニ前日本藥局法ニ基ツキ本箋ヲ印刷發賣セシニ大ニ好評ヲ博
 シタリ爾後之カ改正アルニヨリ訂正ヲ加ヘ復々本箋ヲ發行スルニ至レ
 リ本箋ハ實用ト廉價ヲ旨トシ美麗鮮明ナル各種藥瓶ノ帖箋ヲ印刷シ毎

箋ニ執筆スルノ勞ヲ省キ每箋ニ不同アルカ如キ醜觀ヲ除カハ日夜濟世
 ノ爲ニ劇忙ナル杏林諸君ノ便益モ亦鮮少ナラサルヲ信スルナリ
 醫學博士猪子吉人先生校 ●本島綾三郎先生譯

藥物用法 全一冊 郵正稅價 金五拾錢
 本書ハ譯者カ醫科大學ニ在リテ藥物學研究ノ際藥局方外ノ新藥及其用
 法等ヲ備載セル珍袖書ナク實地醫家ノ不便少ラサルヲ感シト獨國
 拉氏ノ最新著書ヲ譯セルモノナリ篇ヲ分テ藥物分類比重容量一般處方
 摘要藥物並ニ處方追加解毒藥表吸入藥皮下注藥表溶解表日本藥局
 藥量表對症處方索引及鑛泉略誌トナシ新舊藥物ノ用法ハ勿論諸大家ノ
 處方等ニ至ル迄遺スナク實ニ實地家修學諸士ノ掌玉タルハ言フ俟タサ
 ルナリ

藥學士大前寬忠先生校閱 ●島村信司先生編纂
醫家處方複顧 甲號 正價 金六錢 郵稅 金四錢
 乙號 正價 金四錢 郵稅 金二錢
 ●本書卷首ニハ瓦關謨量名稱表等ヲ掲ゲ聊カ醫家ノ臨床處方ニ當リ備
 忘ノ用ニ供ス ●本書處方箋甲乙兩用紙ハ醫師往診先ニ於テ處方スル
 ハ處方等ノ要件ヲ甲乙ニ記入捺印シ終ハ點線部ヨリ割キ其乙號ハ之ヲ
 三折シテ密封シ患者ニ與ヘ藥局ニ廻送セシムルノ便ニ供スルモノナリ
 本書ハ甲號乙號ノ二卷ヨリ成リ甲號ニ廻送セシムルノ便ニ供スルモノナリ
 便ナル爲メ數十種ヲ採録シテ常ニ攜帶ノ用ニ供フ乙號ハ處方箋百枚ヲ

合シテ一冊トナシ是レ又携帶ノ用ニ供アルモノナリ
吉田健康先生校閱●橋本清敏先生纂著

●實用臨床寶鑑 全一冊 正 價 金 五 拾 五 錢
郵 稅 金 六 拾 五 錢

長山喜太郎先生纂著

●プロトツオエン學一班 全一冊 定價金三十錢
郵稅金二十錢

水本元先生纂輯

●黑死病審論 全一冊 正 價 金 二 十 五 錢
郵 稅 金 四 十 五 錢

農科大學助教授獸醫學士津野慶太郎先生著

●訂正市乳警察論 第五版 實 價 金 八 十 五 錢
郵 稅 金 六 十 五 錢

菊判總クローズ包美本精圖拾五個表七面挿入

千葉勝景先生著

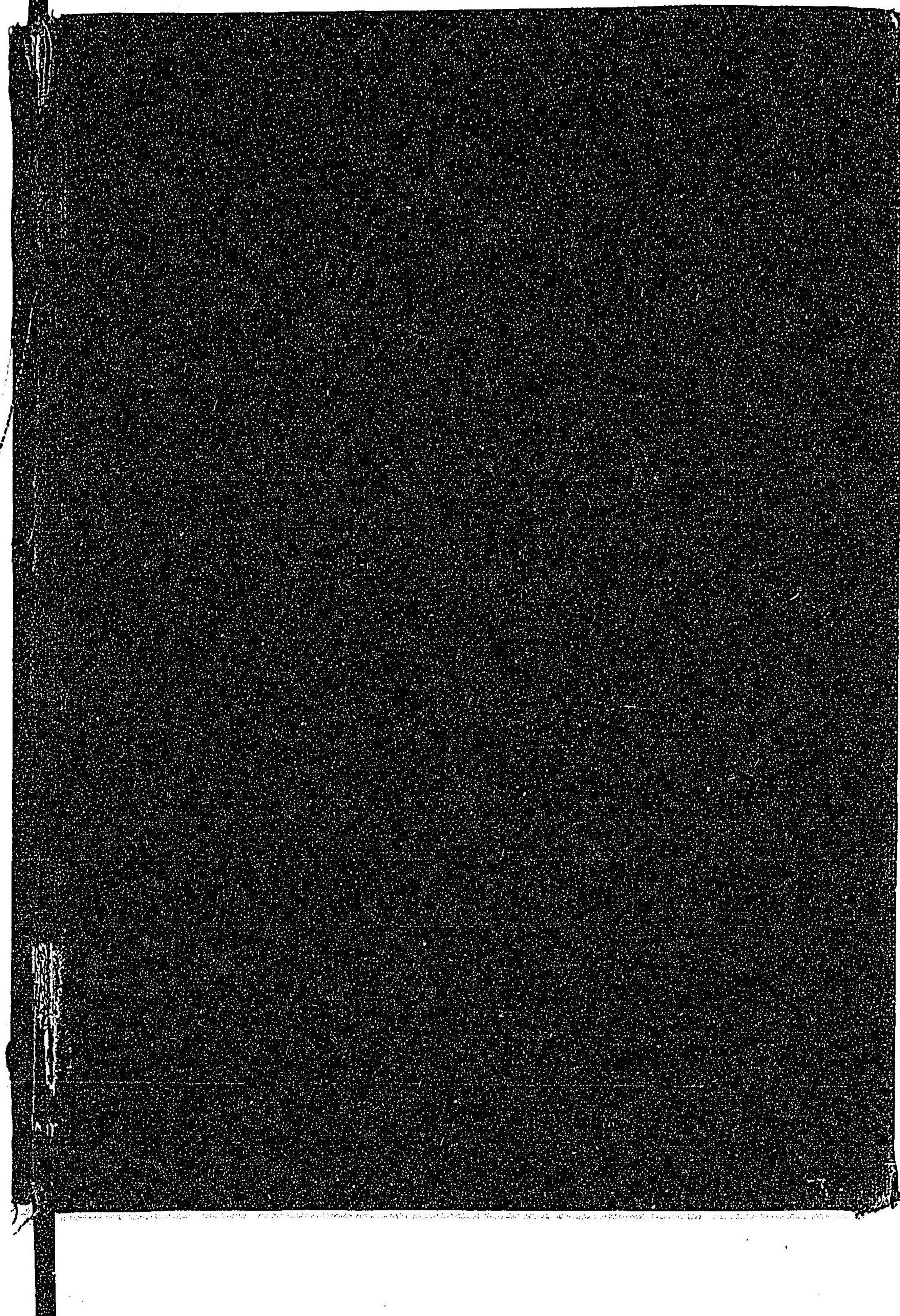
●赤痢壹週間療法 全壹冊 正 價 金 拾 七 錢
郵 稅 金 拾 七 錢

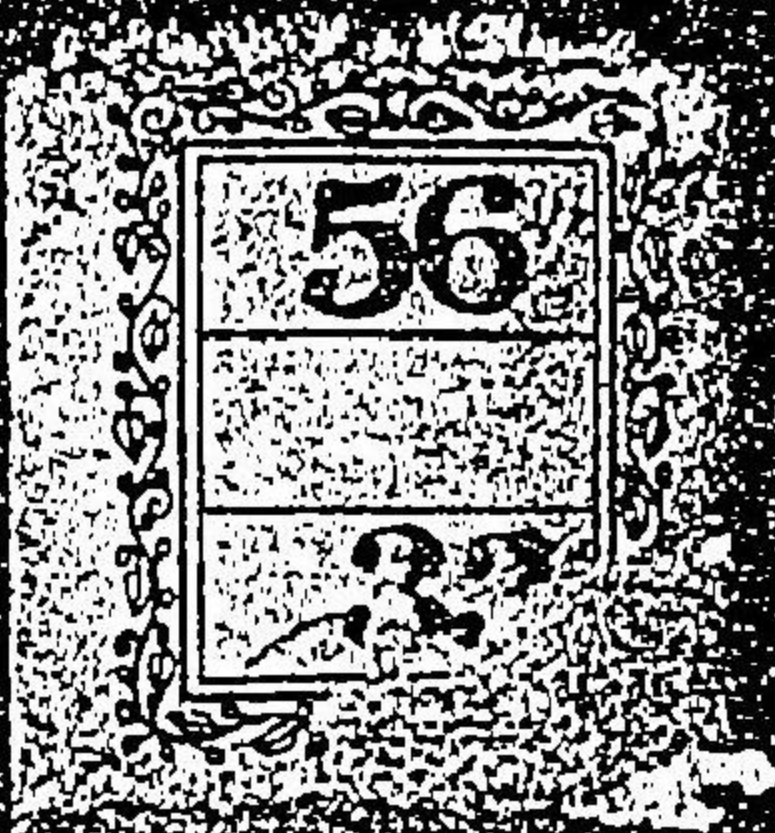
千葉勝景先生著

●脚氣非死病辨 全壹冊 正 價 金 五 錢
郵 稅 金 五 錢

●發賣元 東京市本郷區弓町 一丁目二十五番地 成 功 堂

56
33





059848-000-2

56-33

産科模型(紙製袖珍)

柴田 耕一/著

M34

CBI-0091



